

萩市立明倫小学校 校長室だより

学校教育目標： 人としての生き方を学び、共に高まり合う子どもの育成

チャレンジ目標： ～明倫小A：気持ちのよい7mあいさつ～

～明倫小B：友だちを思いやる美しい心と校舎内外の美しい環境づくり～

～明倫小C：目標や志をもち、達成に向けて進んで取り組む子どもの育成～

伸びる力

2020, 3, 26(木) No.32



保護者・地域の皆様 1年間、大変お世話になりました ～『成徳達材』と『進取の気風』萩藩校明倫館創建300年を終えて～



桜の花が満開に近づいてきました。本日で、令和元年度の全教育課程が修了します。この1年間、保護者の皆様や地域の方々には大変お世話になりました。お陰様で子どもたちの命にかかわるような大きな事件や事故はありませんでした。

今年も、明倫小学校の子どもたちは、多くの保護者や地域の皆様に支えられてきました。登下校の見守り隊の皆様、図書ボランティアの本の修繕や読み聞かせの皆様、三矢会を中心とした学習支援をくださった皆様、そして、学校運営の中核となってくださった学校運営協議会委員の皆様などです。このような皆様方のお陰で子どもたちは、安心して安全に学び合うことができました。そして、しっかりと成長できました。本当にありがとうございました。無理のない範囲で引き続き、次年度も本校教育にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

さて、今年度は萩藩校明倫館創建300年の記念の年度であるとともに、令和という新しい時代を迎えた年度でもありました。

ご存知のように本校の教育の基底の一つに「萩藩校明倫館の学風」があります。萩藩校明倫館の学風とは、一つは、『成徳達材』であり、もう一つは『進取の気風』です。300年という節目に、多くの人材を輩出してきた本校が、これまで大切にしてきたこの2つのことについて改めて確認をしたいと思います。

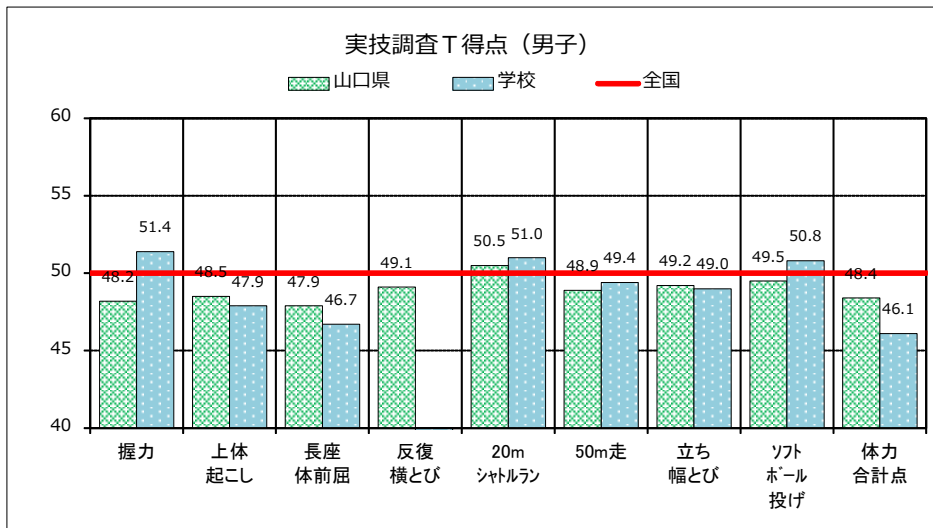
『成徳達材』とは、心を育て、才能を伸ばすことで、学びの本質であり、人の生き方そのものです。目標に向かって苦しさや困難さを乗り越え、自他のよさを認め合い思いやりのある言動ができること。そして、自分自身がもっている可能性を最大限に引き出すとともに、そのことが自分のためだけでなく多くの人の役に立つことができるということです。

『進取の気風』とは、従来の習わしにとらわれることなく、積極・果敢に新しい物事へ取り組んでいこうという気質や性格のことです。新たなことにチャレンジしていく勇気とそれを成し遂げる粘り強さを大切にして物事を成し遂げていくということです。

明治維新を導いた多くの有能な人材を輩出したこの萩藩校明倫館で学んだ多くの人々は、自分の役割や使命を自覚し、見通しをもって果敢に自分の目標にチャレンジしました。そして、明治維新という歴史に残る偉業を成し遂げました。

300年脈々と受け継がれてきたこの二つの『成徳達材』と『進取の気風』は、まさに明倫小学校の歴史と伝統であり、今後も大切にしていかなければならないものです。令和2年の4月から新しい学習指導要領が完全実施となります。この中では、不透明な世の中を自らの力で切り拓くような力を身に付けることが求められています。明倫小学校は、これからも偉大な先人のよさに学ぶとともに、新たな価値を見出すような教育活動を展開し、子どもたち一人ひとりの未来を形成していきたいものです。

子どもたちの体力は大丈夫？ ～体カテストの結果から～



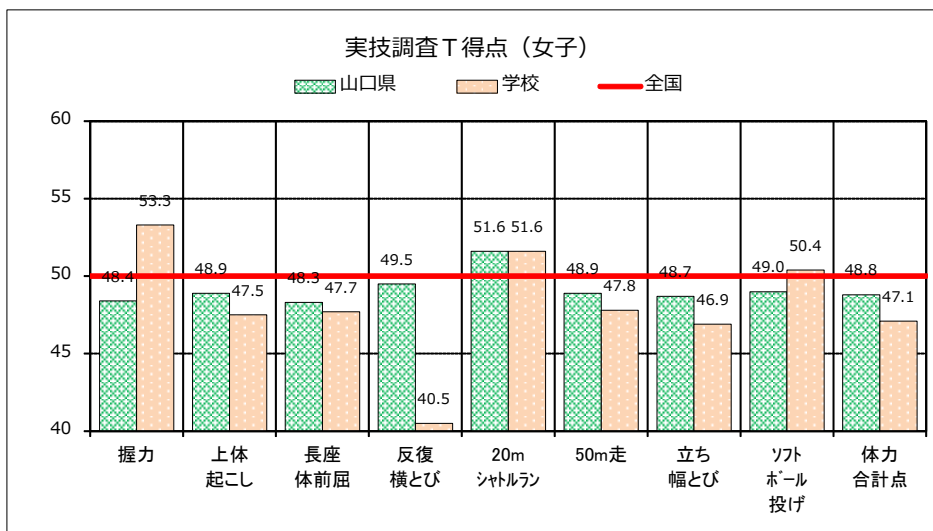
今年度の体カテストの結果が出ました。対象は5年生の男女です。(左図参照)

5年生の男子は、全国平均と比べると、上回っている種目は、握力と20mシャトルラン、ソフトボール投げで、他の6種目は全て全国を下回っています。

また、女子では全国平均を上回っている種目は、男子同様、握力と20mシャトルラン、ソフトボール投げです。

特に男女の反復横跳びは、グラフに表せないくらい数値が低くなっています。反復横跳びは、俊敏性や巧緻性をみる運動種目で、これが劣ることは、瞬時に自分の身体が操作できないということであり、大きなケガに繋がることが予想されます。

また、男女ともに長座体前屈もかなり下回っています。長座体前屈は、身体の柔軟性を計る運動です。身体が硬いと、反復横跳び同様にケガに繋がりがやすくなります。さらに、体力合計



点でも全国平均はもちろんですが、山口県平均よりも2ポイント程度も下回っています。

体力は「生きる力」を支える大切な土台だと思っています。この結果を見ると、子どもたちが、これから複雑で多様な時代を本当にたくましく生きていくことができるかとても不安です。

ゲームやテレビ、インターネットなどに費やす時間が増えていることが大きな原因だと思われるますが、同じ国の同じ学年であることを考えると、本校の子どもたちの生活を改めて見つめ直す必要があると思います。スポーツ庁ができ、日本はスポーツを文化として捉えることが定着し、その次世代の継承者は子どもたちです。しかし、一方では、運動する習慣が身に付いていないことや運動する子どもとしない子どもの二極化が年々進んできているといわれています。

本校では、来年度から体育・スポーツにも力を入れて運動の楽しさを味わわせるとともに、健康・体力の向上に努めていきたいと考えていますが、ご家庭でも子どもの生活の在り方（特にゲームやスマートフォンなどに費やす時間）を見直し、親子で一緒に運動したり、自分の体力を見つめ直したりするなど、生涯を通じて運動に親しむことができるような力を養ってほしいと願っています。人生100年時代を迎え、心と体を一体として捉え、体力を高めていくことは生きる力を育むための重要なことなのです。

※ 学校経営・校長室だよりへの保護者・地域の皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
年 組 児童氏名 ()

